

(1) 決算の概要

平成 30 年度、本学園は創立 120 周年を迎え、記念式典・祝賀会、高等学校硬式野球部・サッカー部の記念試合等、多くの記念行事を開催し、また、卒業生・地域企業様を中心に記念募金へのご協力をいただきながら、記念事業として松本大学 9 号館（食堂棟）の建設、松商学園高等学校の校舎改修等を行い、学生・生徒にとってより良い教育環境の整備を進めることができた年度となった。

1. 事業活動収支関係

【学生生徒等納付金】

当年度在籍した学生生徒に係る授業料・入学金等の納付金である。

松本大学で教育学部が開設 2 年目となって一学年増えており、また他学部の学生募集も順調で学生数が増加したことなどにより、学園全体で前年度より 110,650 千円増加し、3,289,341 千円となった。

経常収入の中で最大の比重を占めており、当年度は 68.2%であった。

【寄付金】

創立 120 周年記念募金活動に対し、多くの皆様からご協力をいただき、他目的の寄付と合わせて総額 61,990 千円の寄付を受けることができた。

【経常費等補助金】

国庫補助金は主に松本大学および松本大学松商短期大学部に係るものであり、地方公共団体補助金は主に松商学園高等学校および松本秀峰中等教育学校に係るものである。

前年度に比べ、松本大学で 13,242 千円、松商学園高等学校で 21,283 千円、松本秀峰中等教育学校で 1,793 千円増加した一方、松本大学松商短期大学部では 26,919 千円の減少となっている。各学校での増減はあるものの、学園全体としては前年度と大きく変わらず 1,017,317 千円となった。

【雑収入】

退職金の支払に伴う退職金団体からの交付金等である。

【人件費】

経常支出の中で最大の部分を占める人件費は、松本大学教育学部の学年進行に伴う教員人件費の増加等により、学園全体で前年度より 173,502 千円増の 2,920,050 千円となった。

当年度の経常収入に対する割合（＝人件費比率）は 60.6%である。

【教育研究経費】

松本大学教育学部の学年進行に伴い松本大学の教育研究経費は増加しているが、学園全体としては前年度に比べ 28,335 千円の減少となった。減少の要因は、主に松商学園高等学校が本年度は甲子園に出場できなかったため関連経費が不要であったこと等が考えられる。

教育研究経費に含まれる減価償却額は、487,752 千円となっている。

当年度の経常収入に対する割合（＝教育研究経費比率）は、33.7%であった。

【管理経費】

学校法人部門で創立 120 周年記念事業に係る経費が発生しているが、学園全体としては前年度に比べ 9,646 千円減少した。

管理経費に含まれる当年度の減価償却額は、5,516千円である。

【経常収支差額】

当年度の教育活動収支差額は、学園全体で88,337千円の支出超過となったが、松本大学教育学部が開設2年目であるため2学年のみの収入となっていることが大きな要因であり、計画通り順調に推移しているものと考えている。

財務活動については今般の低金利によって収入が減少しており、教育活動外収支差額は1,482千円の収入超過となっている。

教育活動収支差額に教育活動外収支差額を加えた経常収支差額は、86,854千円の支出超過である。

経常的な収支バランスを表す経常収支差額比率（経常収支差額の経常収入に対する割合）は、 $\Delta 1.8\%$ となった。

【基本金組入前当年度収支差額】

特別収入としては施設設備の拡充を目的とした寄付が12,440千円あり、特別支出には汚損した図書の除却など資産処分差額が7,716千円計上されている。特別収支差額は4,723千円の支出超過となり、基本金組入前当年度収支差額は82,131千円の支出超過となった。

事業活動収支差額比率（基本金組入前当年度収支差額の事業活動収入に対する割合＝従来の帰属収支差額比率）は、 $\Delta 1.6\%$ であった。

【当年度収支差額】

基本金組入前当年度収支差額から基本金への組入額13,498千円を控除した当年度収支差額は $\Delta 95,629$ 千円である。

2. 資金収支関係（活動区分）

【教育活動による資金収支】

本業である教育活動による資金収支は455,337千円の収入超過となった。

【施設整備等活動による資金収支】

施設整備等活動では、松本大学9号館（食堂棟）の完成に伴う施設関係支出・設備関係支出の計上等により資金収支差額が451,543千円の支出超過となっている。なお、9号館建設費の一部は未払であるが、その支払に充てるため施設拡充引当特定資産への繰入れを行っている。

【その他の活動による資金収支】

当年度予算において、松本大学9号館の建設費支払に伴い教育活動資金収支差額と教育活動外収支差額の小計を348,290千円の支出超過と見込んでいたため、予定通り500,000千円の借入を行い、借入金等収入として収入に計上している。

また、過年度に教育学部に対する県・市の補助金を原資として繰入れた「松本大学教育学部教育拡充引当特定資産」について、教員人件費等に充てた当年度使用額86,845千円を取崩し、収入に計上している。

当年度のその他の活動資金収支差額は590,261千円の収入超過となっている。

【支払資金の増減額・翌年度繰越資金】

支払資金は、前年度末に比べ594,055千円増加し、翌年度に繰越す支払資金の残高は3,018,218千円となった。

3. 貸借対照表関係

【有形固定資産】

松本大学 9 号館建設により建物が増え、有形固定資産全体では前年度に比べて 263,584 千円増加し 11,659,217 千円となった。総資産に占める割合は 75.1%となっている。

【特定資産】

第 2 号基本金引当特定資産は、松本大学 9 号館建設計画に基づき繰入れたものであるため、完成に伴い取崩した。

松本大学教育学部教育研究引当特定資産は、前年度末残高の全額を取崩している。

施設拡充引当特定資産のうち、234,364 千円は翌年度予定されている松本大学 9 号館建設費の支払に充てるものであり、20,000 千円は創立 120 周年記念募金の当年度未使用相当額を翌年度以降の重点項目に投資することを目的として繰入れたものである。

特定資産の期末残高は 579,606 千円となり、前年度に比べ 151,914 千円の減少となっている。

【その他の固定資産】

減価償却等により、前年度より 12,468 千円減少した。

【流動資産】

前年度より 657,667 千円増加し、3,229,342 千円となった。流動負債に対する割合(流動比率)は、259.7%と良好な水準を維持している。

【固定負債】

松本大学 9 号館建設に伴う借入金 500,000 千円と退職給与引当金 322,128 千円が計上されている。

【流動負債】

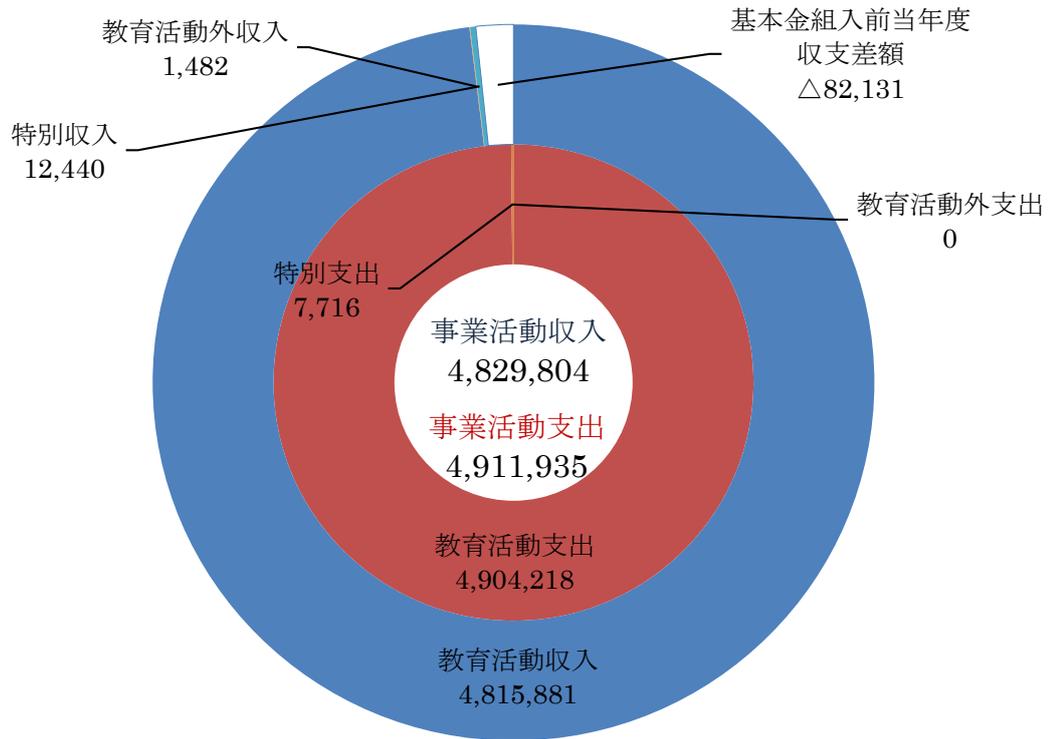
流動負債には、平成 31 年度入学生の入学金・授業料等が前受金として 677,072 千円計上されており、未払金期末残高の 514,354 千円(松本大学 9 号館建設費の未払額 234,364 千円を含む)や預り金等と合わせて、年度末残高は 1,243,383 千円となっている。

【基本金・繰越収支差額】

第 1 号基本金は、第 2 号基本金から 314,349 千円を振り替えており、当年度末で 19,095,485 千円となっている。平成 30 年度末における基本金の合計額は 19,565,798 千円である。

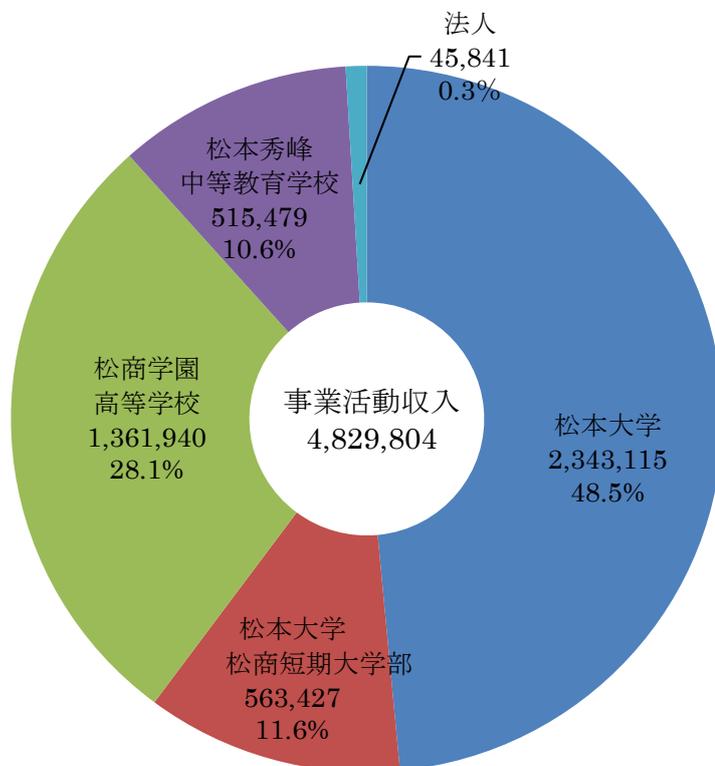
事業活動収支計算の結果である翌年度繰越収支差額は 6,099,537 千円の支出超過であり、純資産の部合計は 13,466,261 千円となっている。

事業活動収支の活動別内訳



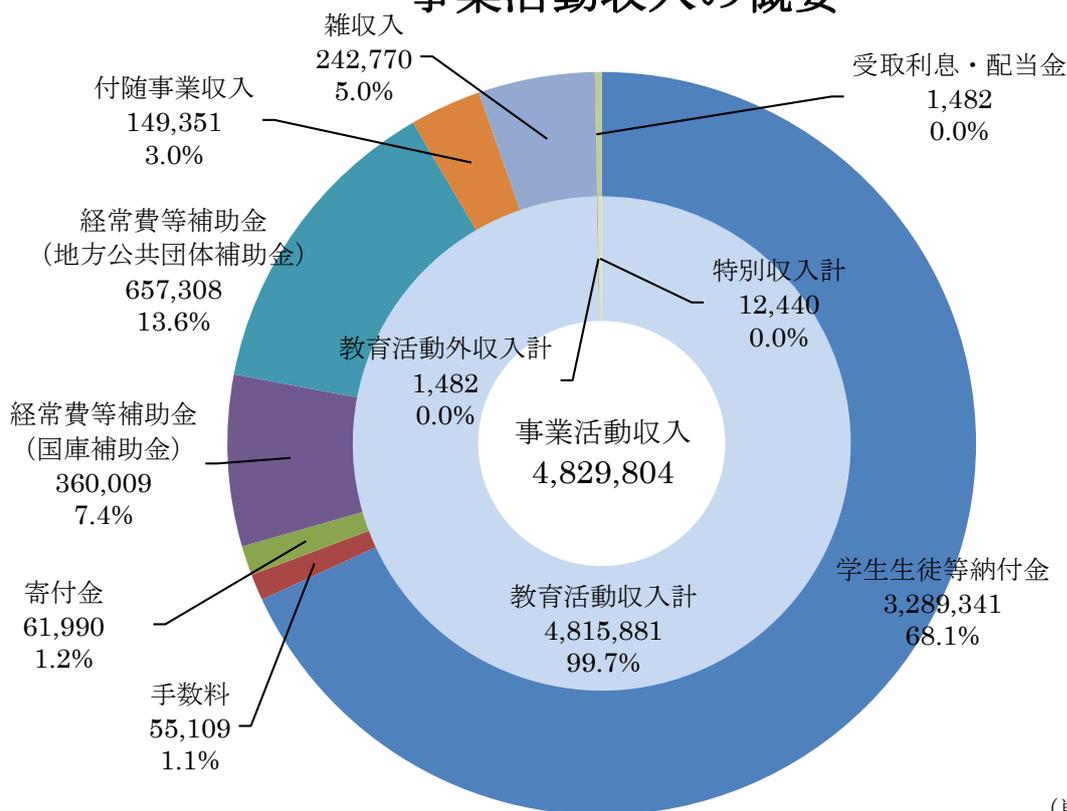
(単位:千円)

事業活動収入の部門別内訳

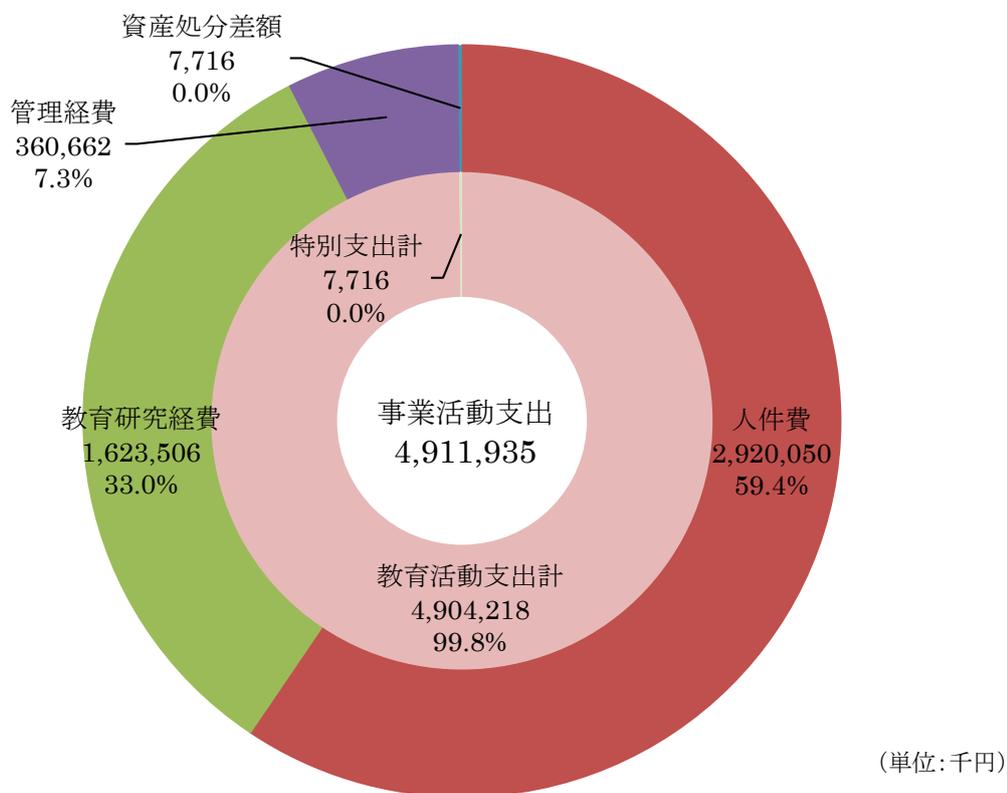


(単位:千円)

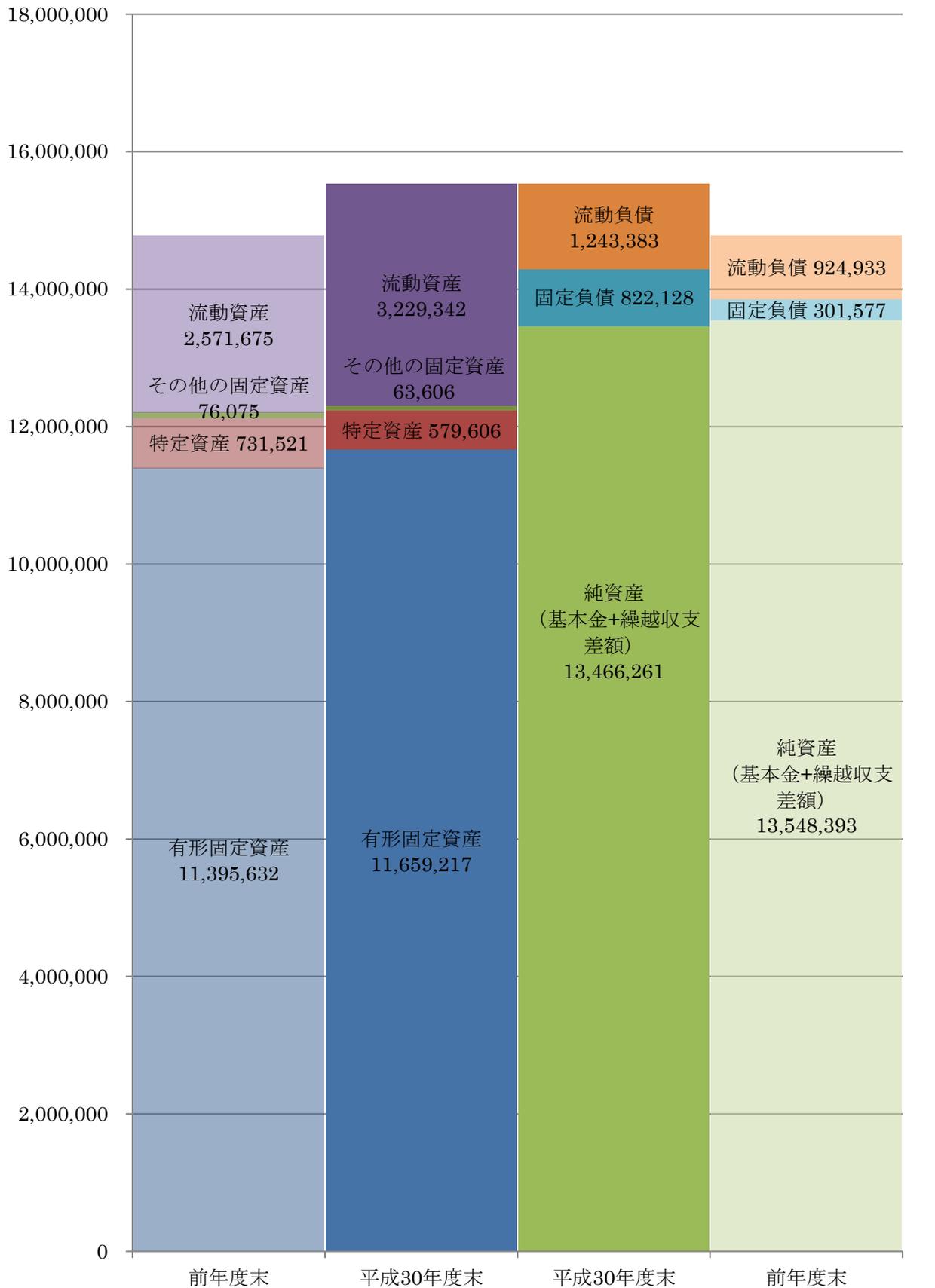
事業活動収入の概要



事業活動支出の概要



貸借対照表の構成(前年対比)



(単位:千円)